

No.4	高度化		
氏名	LEE Wonjin	国際関係学部	4回生
1. 出願時のテーマ・目標を具体的に記述してください。			
[多国間協力を活用する国際紛争管理政策の研究と青年の積極的役割を通じた国際協力の促進] - 青年の力量強化と国際経済への青年の積極的な参加、そして持続可能な開発および国際問題に対する社会的問題を青年が主導して議論することで、私は青年間の国際ネットワークを強化し、政策研究を執行して青年親和的な国際社会を作るための現実的で実現可能な国際政策を国家指導者たちに提案し、世界的なコミュニケーションを形成して青年が国際社会の必須の構成員に成長できるよう、国際的な連帯を通じた社会的キャンペーンを進めていこうと思います。			
2. 上述のテーマ・目標を実現するために実施した計画を具体的に記述してください。			
コロナにより対面活動が禁止されているだけに、青年同士の意見を共有し討論する機会が限られています。特に、対面コミュニケーションの場合、対面討論に比べ、意見交換や共感など様々な部分において限界があります。その後もコロナの状況が好転するとは思えないだけに、政策討論や協議など、人との対話や必要な場合、このような限界を克服できる方案を設ける必要があると思います。Zoomを通じたウェビナを開催する場合、技術的難題など、様々な新しい問題点に対処するための対策を模索します。一方、ウェビナは距離的限界を乗り越えてより多くの人々の参加を誘導することができるため、SNSなどを通じたオンライン広報活動を積極的に行い、このような可能性を極大化します。一方、世界的なネットワークを通じた青年活動を促進するために、代表団との協議を通じて相互相談体を定例化し、青年の民間参加を誘導するための協力方案を探そうとしています。			
5. 今回（今年度）の取り組みについて、今後の活動展開と展望を記述してください。			
2020年度各国代表団の任期が終了して公式的な活動も完了しました。しかし、各国代表団のすべてが国際機関、政府機関、民間企業など、さまざまな分野での国際的な活動を続けています。2020年度の活動と人的ネットワークに基づいて、世界の青年の間の接続と通信を強化するために、社会的に貢献できる活動を継続することです。			
6. 今回（今年度）の取り組みは、今後の学びや進路にどのように影響しますか。			
今年、外交学専攻で大学院に進学し、国際葛藤の管理と協力促進方案を研究する計画でございます。多国間協力体制下での国家間葛藤管理と協力促進に関する今回の経験は、こうした研究の貴重な実証的な経験を提供してくれるだと思っております。今後、実務的に国際社会に貢献する際に、実質的な基盤を提供できると信じております。			
7. 今回（今年度）の活動が周囲に与えた影響（社会・周囲）への貢献・還元の点で記述してください。			
コロナウィルスの世界的な広がりが世界経済と社会に多大な影響を及ぼしたこの時期に、国際会議で代表団として世界経済の新たな方向性と国際社会の発展方策を模索するのに寄与することができました。人種差別の撤廃による包容性の強化、持続可能な世界経済の必要性など、多様な観点から国際社会を診断・処方することで、世界の指導者たちの国際社会に対する合意に寄与してきました。			

3. 個人の成長の軌跡3-1. 取り組みの過程でどのようなことがあったのか、グラフを作成してください。	
3-2. グラフで書いた☆（個人がもっとも成長したと思うポイント）では、その過程で学んだこと、気づいたことについて具体的に書いてください。	
多様な国際機関、政府、民間団体などから資料を収集して特定の目的に合わせて加工する過程を通じて、国際関係に関する社会学的研究と実務に役立つことができる経験と知識を獲得することができました。またオンラインでの活動でもっと広い範囲の資料の収集が可能となり、多様なネットワークを拡張できることを分かるようになりました。	
3-3. “今回（今年度）の取り組み”と“正課の学びや取り組み”は、どのような関連や影響（相互作用）がありましたか？	
国際政治と国際法についての学校での教育は、国家間関係と競争と協力が共存しなければならない外交の現場だということを悟らせてくれたし、相互協力を土台に国際関係を発展させてより良い社会を作らなければならないという教訓を実務的に適用できるきっかけになりました。	
4. 本奨学金を受給したことで、以下の項目についてどのような影響を与えたか5段階で評価してください。（該当ナンバーに○） また、併せて評価の理由も書いてください。評価例：【 1（達成できなかった） ← 3（どちらともいえない） → 5（達成できた） 】	
① 目標の達成度	5
<理由>	ソウル大、延世大など様々な韓国大学生とオンラインセミナーを開催し、G20会議の議題に関して討議し、政策的提案の完成に貢献しました。
② 計画の達成度	5
<理由>	コロナが原因で、対面活動ができなくなりました。本計画は、一般の大学生または青年との意思疎通と討論に基づいて国際政治への積極的な参加を誘導する目的がありますが、対面接触だけが可能になり、オンライン討論による限界のため、円滑な意思疎通を100%遂行することができませんでした。
③ 取り組みを通じた自己成長	5
<理由>	コロナ事態により、むしろ非対面社会に代表される新しい社会様相に適応するための社会的方案と国際協力案に対する青年観点での議論を進め、探求することができました。
10. 今年度の取り組みを通じて最も身についたと思う力について、具体的に記載してください。9の設問で回答した力でも、それ以外でも構いません。	
① 身についた力	情報収集・発信力
② ①で記述した力について具体的に説明してください	世界経済や社会等に関する情報の収集と、若者としての国際社会の公式活動における活動
③ なぜその力を身につけることが出来たのか、成長を手助け・促進させた要因を記載してください	20代の若者として国際社会の公式的な活動に参加するのは難しい事でした。年が持つ限界のためです。しかし、青年という新たな観点から世界経済と社会の方向性を診断し模索して、そのための様々な情報を収集して加工する過程を通じて、青年であることにもかかわらず、その長所とともに国際社会での発言力を強化することができました。